

# Kaspersky Hybrid Cloud Security ライセンス概要

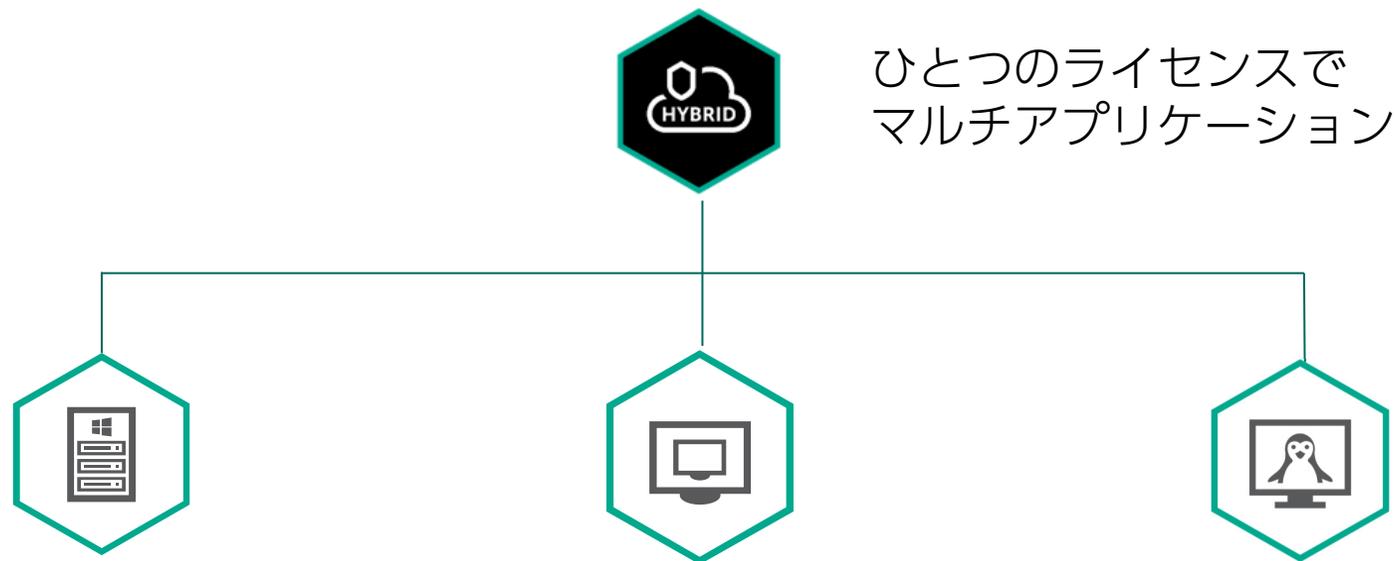
2023年5月23日

株式会社カスペルスキー  
セールスエンジニアリング本部

kaspersky

# Kaspersky Hybrid Cloud Security

Kaspersky Hybrid Cloud Securityは、クラウド環境、仮想環境、物理サーバーに使用出来る製品です。



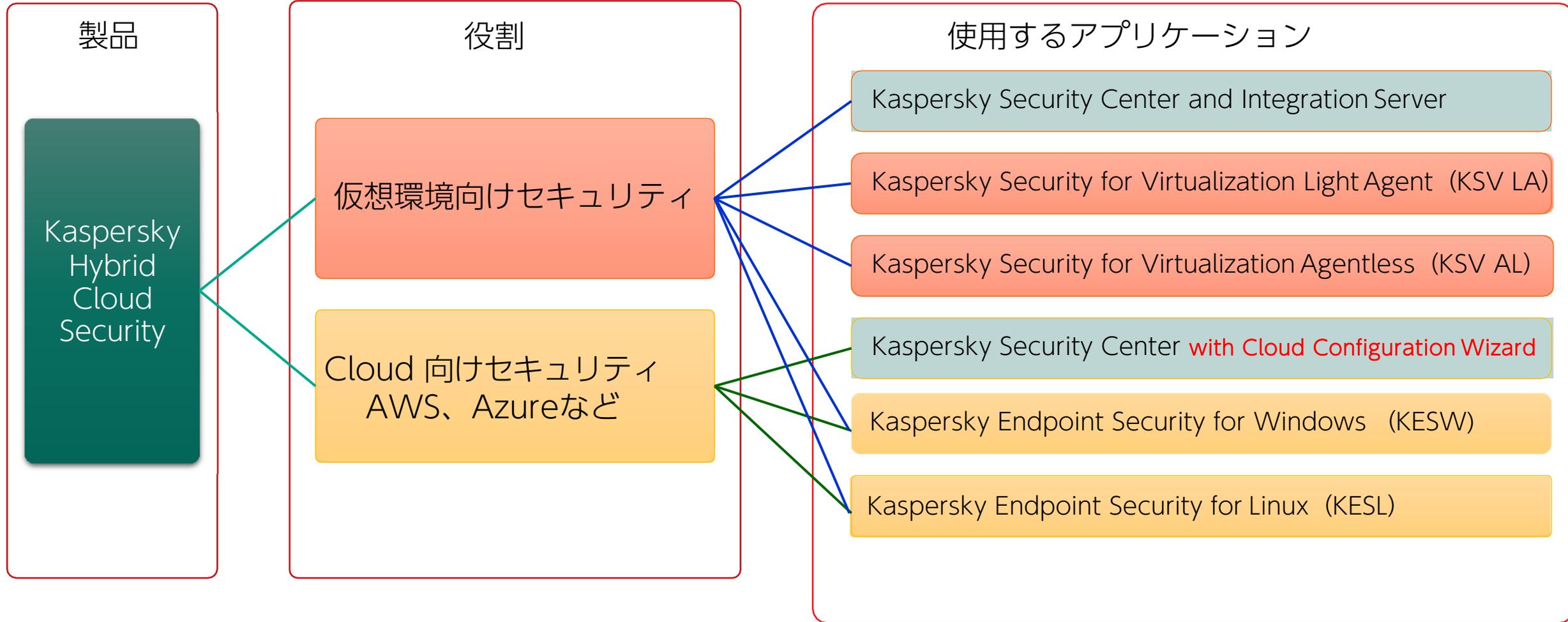
ひとつのライセンスで  
マルチアプリケーション

Kaspersky Security for Virtualization

Kaspersky Endpoint Security for Windows

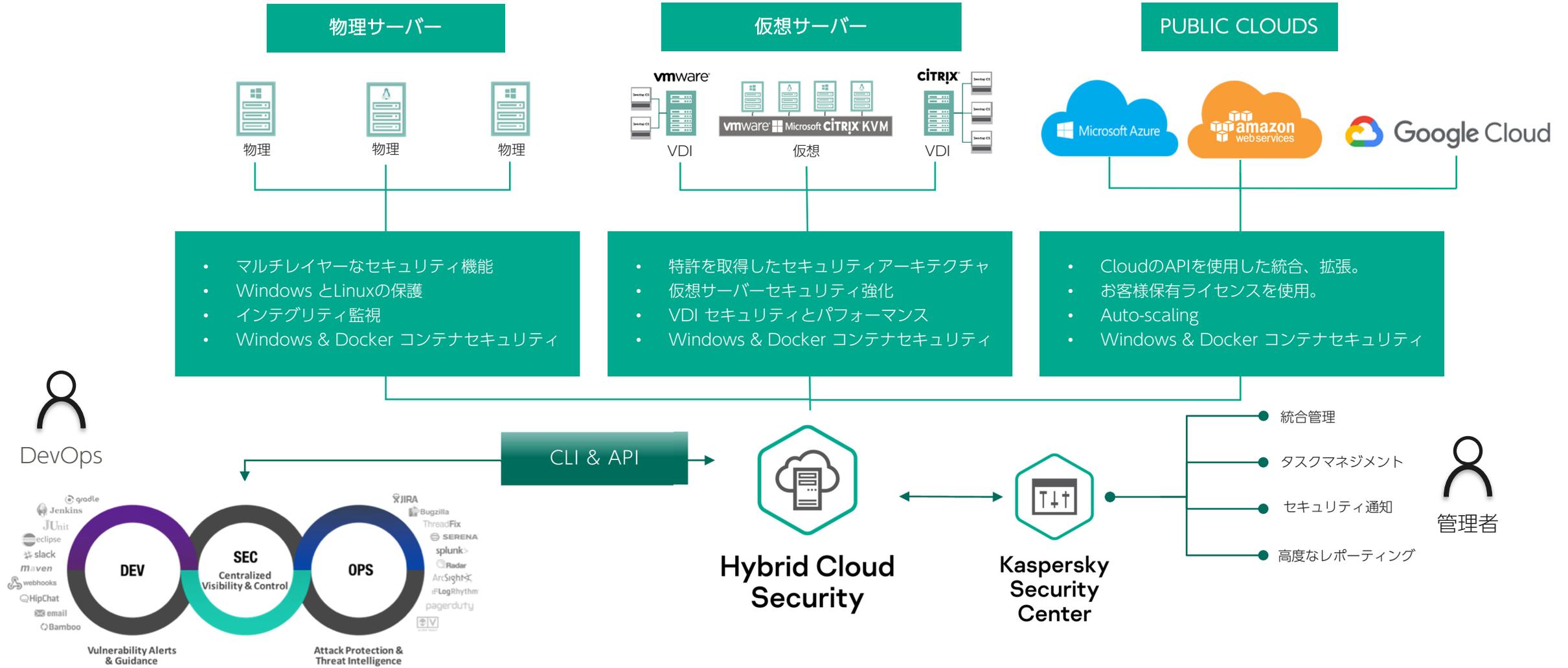
Kaspersky Endpoint Security for Linux

# Kaspersky Hybrid Cloud Security (KHCS)



Kaspersky Endpoint Security for Windows **11.9以降**では、KHCSライセンスが使用出来ます。  
仮想環境におけるクライアントOS保護には、Kaspersky Security for Virtualizationを使用します。

# Kaspersky Hybrid Cloud Security Architecture



# Kaspersky Hybrid Cloud Security ライセンスの種類

Kaspersky Hybrid Cloud Securityには5つのライセンス種別があります。

マシンインスタンス数でライセンスカウントするタイプ

- Kaspersky Hybrid Cloud Security - デスクトップ
- Kaspersky Hybrid Cloud Security Enterprise - サーバー
- Kaspersky Hybrid Cloud Security - サーバー

ハイパーバイザーのCPU数でライセンスカウントするタイプ

- Kaspersky Hybrid Cloud Security Enterprise - CPU
- Kaspersky Hybrid Cloud Security - CPU

**\*\*CPUライセンスは、Public Cloud、物理サーバーには使用出来ません。**

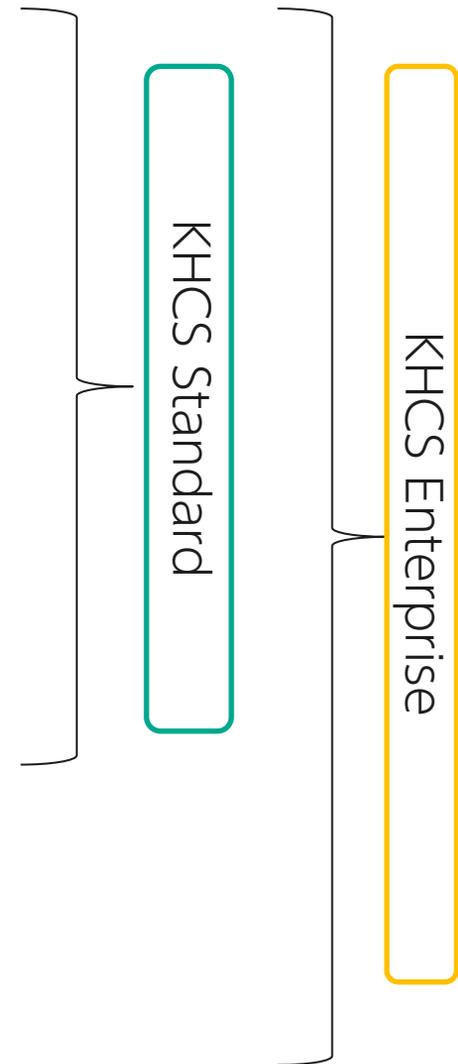
# Kaspersky Hybrid Cloud Security ライセンスの種類

Kaspersky Hybrid Cloud Securityには5つのライセンス種別があります。

- Kaspersky Hybrid Cloud Security - デスクトップ
  - ✓ VDI 向けライセンス。仮想デスクトップ インスタンス数でライセンスカウント。
- Kaspersky Hybrid Cloud Security Enterprise - サーバー
- Kaspersky Hybrid Cloud Security - サーバー
  - ✓ 物理サーバー、仮想サーバーインスタンス、Public Cloudインスタンスに使用。
  - ✓ サーバーインスタンス数でライセンスカウント。
- Kaspersky Hybrid Cloud Security Enterprise - CPU
- Kaspersky Hybrid Cloud Security - CPU
  - ✓ 仮想環境向けライセンス。サーバー、クライアントOS共に保護対象。
  - ✓ ハイパーバイザーのCPU数でライセンスカウント。  
対象ハイパーバイザー上の仮想マシンを保護。

# KHCS ライセンスエディション別 アプリケーション機能表

KSC(Win)	KSV LA	KSV AL	KESL	KES12~	機能
+					Cloud API integration
	+	+	+	+	ファイルアンチウイルス
	+			+	脆弱性攻撃ブロック
	+		+	+	Firewall
	+		+	+	ふるまい検知
	+		+	+	アンチクリプター (共有フォルダー対象)
	+		+	+	ネットワーク攻撃ブロック
	+		+	+	デバイス制御
	+		+	+	Web脅威保護
	+			+	AMSI (スクリプト監視)
	+			+	トラフィックセキュリティー メール脅威保護
	+			+	トラフィックセキュリティー Webコンテンツフィルター
	+			+	アプリケーション制御
	+		+	+	ファイルインテグリティ
				+	Log Inspection
				+	Bitlockerドライブ暗号化
		+			IDS/IPS for VMware NSX



KESにおけるアンチクリプター機能はふるまい検知に含まれています。

KSV LAの機能はOSにより異なります。

# Kaspersky Hybrid Cloud Security ライセンス 典型的な活用例

- AWS、AzureなどPublic Cloudで使用。  
“KHCS - サーバー”、“KHCS Enterprise - サーバー”を使用。  
Cloud APIを使用し、KSWWS、KESLを自動インストール。
- オンプレミス仮想環境で使用。  
“KHCS - CPU”、“KHCS Enterprise - CPU”を使用。（全種別が使用可能）  
KSV LAかKSV ALをインストールし、インスタンスを保護。
- 重要なサーバーで、システム監査を付加。  
“KHCS - サーバー”、“KHCS Enterprise - サーバー”を使用。  
KESW（Windowsイベントログ監視、ファイル変更監視）  
KESL（システムまたは指定したファイルの変更監視と変更の通知）を使用。

# Kaspersky Hybrid Cloud Security ライセンス 典型的な活用例

- 数台の物理サーバーを保護。小規模環境でサーバーが少ない。  
“KHCS - サーバー”、“KHCS Enterprise - サーバー”を使用。  
KESW、KSWS、KESLをインストール。
- RDSサーバーを保護。  
“KHCS - サーバー”、“KHCS Enterprise - サーバー”を使用。  
KESWをインストール。  
KESBライセンスとの併用。

# Kaspersky Endpoint Security for Windows使用時の注意

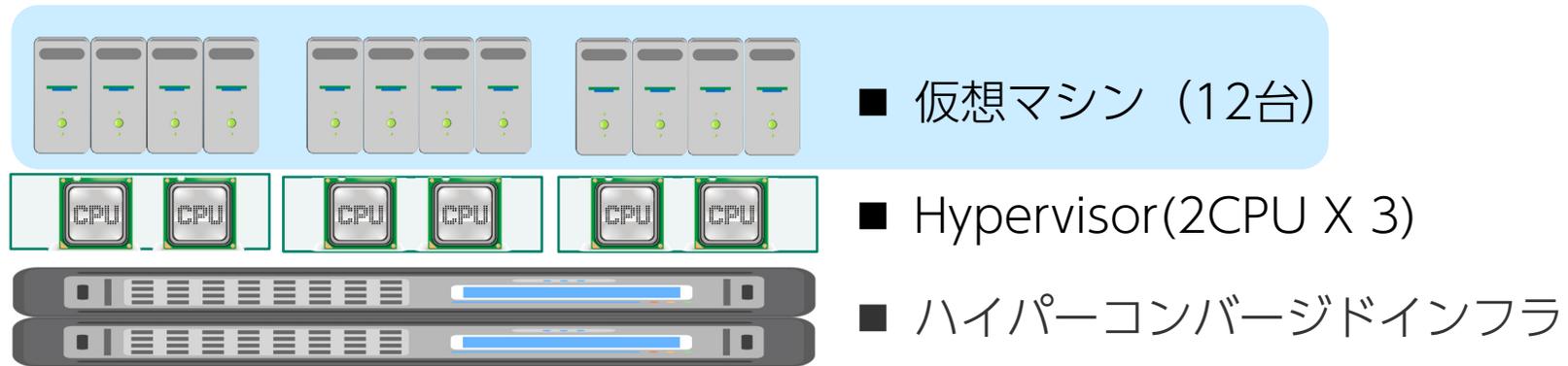
KHCSサーバー、CPUライセンス使用時に  
Kaspersky Endpoint Security for Windowsを使用出来るのは、  
Windows サーバーOSのみです。

KHCSデスクトップライセンス使用時に  
Kaspersky Endpoint Security for Windowsを使用出来るのは、  
Windows クライアントOSのみです。

アクティベーションに使用出来るのは、  
2022年6月6日以降に発行したKHCSライセンスのみです。  
それ以前に発行したライセンスをお持ちの方は、カスペルスキーにお問い合わせください。

問い合わせ先 [jp-sales@kaspersky.com](mailto:jp-sales@kaspersky.com)

# Kaspersky Hybrid Cloud Security 構成例



## • ライセンスの考え方

パターン① CPUライセンスの場合  
HypervisorのCPU数合計で計算。(例では6CPUライセンス)

パターン② サーバーライセンスの場合  
仮想マシン数合計で計算。(例では12ライセンス)

## • アプリケーションの構成パターン

パターン① KSV Agentlessで構成。(ESXiのみ)

パターン② KSV Light Agentで構成。

パターン③ KES for LinuxとKaspersky Endpoint Security for Windowsで構成。



- ライセンスの考え方

- パターン① CPUライセンスの場合

- CPUライセンスのみでは対応出来ない。

- HypervisorはCPU数合計で計算。物理サーバーはサーバー台数で計算。

- 本例の場合、

- Kaspersky Hybrid Cloud Security - CPU 8ライセンス

- Kaspersky Hybrid Cloud Security - サーバー 2ライセンス

- パターン② サーバーライセンスの場合

- 仮想サーバー数、物理サーバー数合計で計算。（例では  $5 + 2 = 7$  ライセンス）

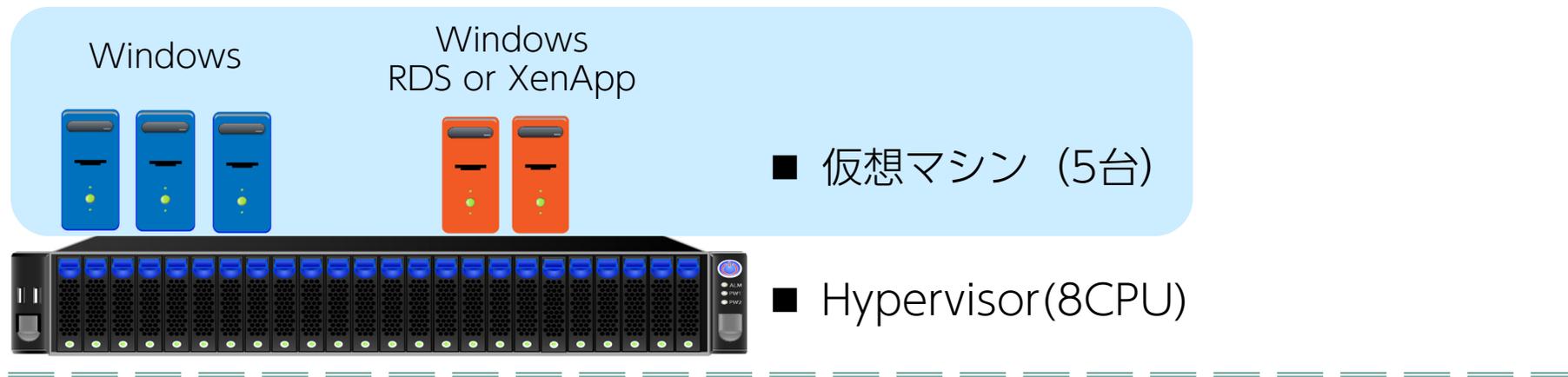
- アプリケーションの構成パターン

- パターン① 仮想環境は、KSV Agentless または KSV Light Agentで構成。

- 物理サーバーはKES for Linux と Kaspersky Endpoint Security for Windowsで構成。

- パターン② 仮想環境は、KES for Linuxで構成。

- 物理サーバーはKES for Linux と Kaspersky Endpoint Security for Windowsで構成。



- ライセンスの考え方

- パターン① CPUライセンスの場合  
Hypervisorは、CPU数合計で計算。（例では8CPUライセンス）

- パターン② サーバーライセンスの場合  
仮想マシン数合計で計算。（例では5ライセンス）

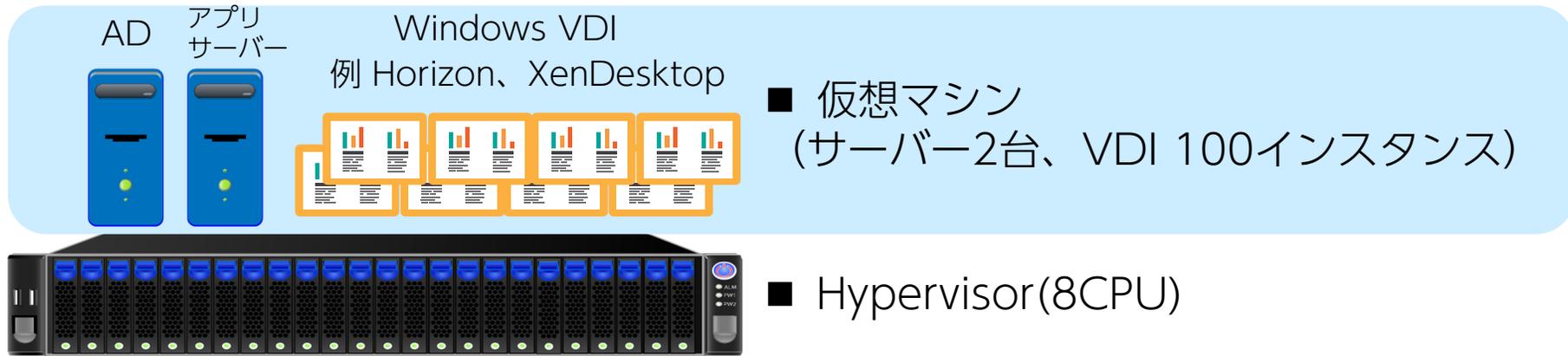
- アプリケーションの構成パターン

- パターン① KSV Light Agentで構成。

- パターン② KSV Agentlessで構成。

- パターン③ 仮想サーバーをKaspersky Endpoint Security for Windowsで構成。  
RDSまたはXenAppのセッション毎の  
メールアンチウィルス、Webアンチウィルスを実現。

## Windows



### ・ ライセンスの考え方

パターン① CPUライセンスの場合

Hypervisorは、CPU数合計で計算。(例では8CPUライセンス)

パターン② サーバーライセンス/デスクトップライセンスの場合

仮想サーバー数合計、仮想デスクトップ数合計で、各々計算。

本例の場合、

Kaspersky Hybrid Cloud Security - サーバー 2ライセンス

Kaspersky Hybrid Cloud Security - デスクトップ 100ライセンス

### ・ アプリケーションの構成パターン

パターン① 仮想サーバー、VDIを KSV Light Agentで構成。

Light Agentには、メールアンチウイルス、Webアンチウイルス、振舞検知などがあり、VDIに最適である。

パターン② 仮想サーバー、VDIを KSV Agentlessで構成。



## ・ ライセンスの考え方

パターン① CPUライセンスの場合

CPUライセンスのみでは対応出来ない。

Hypervisorは、CPU数合計で計算。クラウド仮想サーバーはサーバー台数で計算。

本例の場合、

Kaspersky Hybrid Cloud Security - CPU 8ライセンス

Kaspersky Hybrid Cloud Security - サーバー 3ライセンス

パターン② サーバーライセンスの場合

仮想マシン数合計で計算。(例では6+3=9ライセンス)

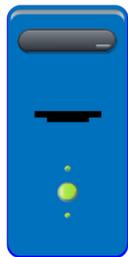
## ・ アプリケーションの構成パターン

パターン① オンプレミス仮想環境を、KSV Agentless またはKSV Light Agentで構成。

クラウド環境を Kaspersky Endpoint Security for Windows, KES for Linuxで構成。

## 物理サーバー

Windows Server または Linux



---

- ライセンスの考え方

パターン① サーバーライセンス。  
一本でも購入可能。

- アプリケーションの構成パターン

パターン① 物理サーバーはKES for Linux または Kaspersky Endpoint Security for Windowsで構成。